



《レオナルド・ダ・ヴィンチ 解剖手稿》(ウインザー城王室図書館蔵・ファクシミリ版) より
 神奈川大学図書館蔵

目次

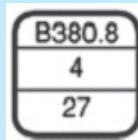
- 新・平塚図書館のご紹介…………… 2頁
- 【連載】W・M・ヴォーリズと『湖畔の声』②
 …………… 中村 裕史 4頁
- 【連載】図書館のススメ (その5)
 横浜国立大学附属図書館…………… 5頁
- 先輩・同級生からのメッセージ
 「仲間たちと過ごした図書館」
 …………… 保科友希恵
 「図書館の思い出」…………… 南 果 6頁
- 図書館の所蔵資料紹介
 映画「未来世紀ブラジル」(DVD) …… 7頁
- 今号の表紙…………… 8頁
- 編集後記…………… 8頁

図書館のコトバ

その⑥ 請求記号

図書館の本には必ず背表紙にラベルが貼ってあります。このラベルに書いてある番号を「請求記号」といい、請求記号は分類番号と受入番号、巻号数などが組み合わされて構成されています。

この請求記号の構成は、図書館によって異なります。例えば、横浜図書館の本は三段目が受入番号ですが、平塚図書館では二段目が受入番号、また、他の図書館では著者の名前のイニシャルを組み入れた著者記号を利用している場合もあります。いずれの場合も請求記号は「本の住所」。図書館の本は請求記号順に並んでいますので、本を探すときには重要な情報になります。



(横浜図書館の請求記号ラベル)

新・平塚図書館のご紹介

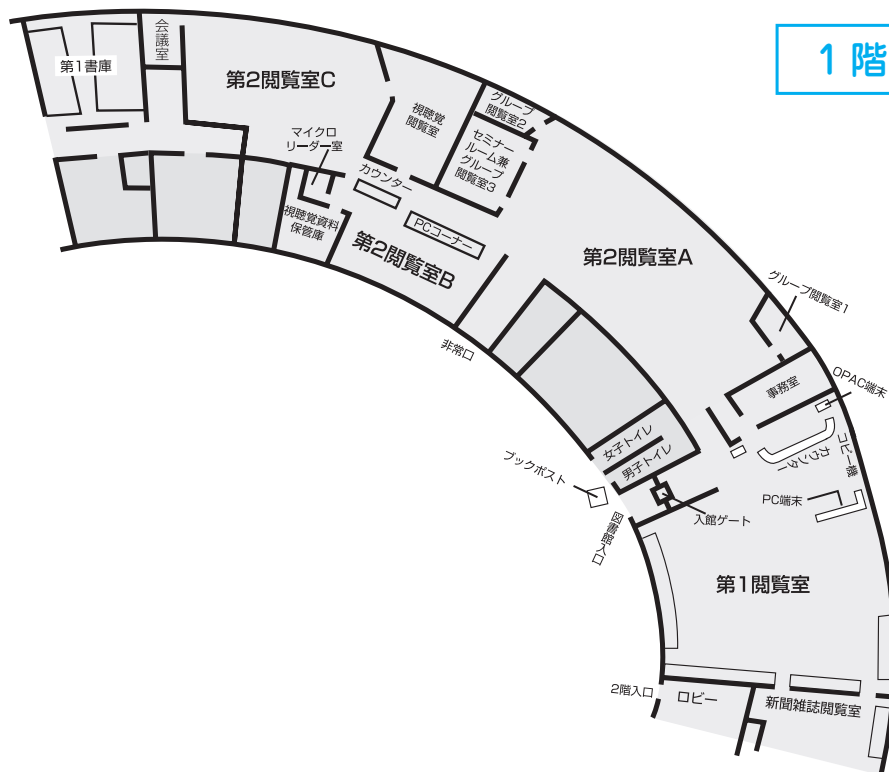
平塚図書館は1989年、湘南ひらつかキャンパスの経営学部・理学部の開設とともに、教育・研究支援施設として設置され、当初は4万5千冊程度の所蔵でスタートしました。

しかし蔵書数も昨年末には約16万冊（図書）に膨らみ、既存の図書室だけでは保管しきれなくなりました。このため、昨年（2009年）神奈川大学創立80周年の記念事業の一環として、また湘南ひらつかキャンパスの開設20周年を記念して増改築が行われました。この改善に伴い機能が整備・充実されたことにより「平塚図書館」から「平塚図書館」と称することになりました。

新たに増改築された主要部分について

以前、コンピュータ演習室や第二会議室として使用していたエリアを新たに「第2閲覧室」として改修したことにより、これまでより広さが倍になりました。第2閲覧室のAエリアには、発行年の古い和図書6万1千冊を電動集密書架に配架しているほか、落ち着いた雰囲気のカフェ10席とPC3台を設置しています。Bエリアには理学系洋雑誌を配架したほか、視聴覚受付、PCコーナーがあり、Cエリアには経営・理学系の洋図書2万冊と和雑誌を電動集密書架に配架し、プライバシーの守られた個人ブース3室とPC2台が配置され、研究者に適したエリアとなっています。

フロアマップ（平塚図書館）



新しくなった第2閲覧室のご紹介



キャレル閲覧席

第2閲覧室のキャレル10席は丹沢の山々が見える窓際に配置され、落ち着いた環境で学習ができます。また、このエリアの電動集密書架は、利用者が自由に操作できる安全性の高いものです。

セミナールーム兼グループ閲覧室3

図書館利用セミナーやオンラインデータベースの利用方法などの各種講習会を行う部屋です。

通常のセミナー等のない時は、少人数のグループが自由に利用できる閲覧室として開放していますのでご利用ください。又、他にも2室のグループ閲覧室があります。



PCコーナー

理学系洋雑誌を配架した手動集密書架のそばにあり、特に論文・レポート作成のため、学内実習環境と同等の機能があるPCを5台設置しています。

視聴覚資料室

視聴覚資料室では、図書館所蔵の映像資料（ビデオ・DVD）や音楽資料（CD）を視聴利用できます。第2閲覧室カウンターにてお申し込みください。なお、館外貸出および持込資料の利用はできません。



個人ブース

第2閲覧室のCエリアにできた、図書館所蔵資料とともにデータベースやインターネットを利用できるPCを備えた研究者用の個室（3室）。見晴らしがよく、落ちついて研究・教材作成に集中できます。

W・M・ヴォーリズと『湖畔の声』②

—「今日は昨日、明日は今日より、進みに進み行く、我等のよき日とせん」—

中村 裕史（図書館総合サービス課）

『湖畔の声』発刊まで

ヴォーリズが着任した商業学校は明治19年の開校、全国でも10番目という歴史がある。近江商人の伝統を引き継ぐ実学主義の教育を実践し、その中で英語にも力を入れていた。YMCAの教師には布教活動が認められており、ヴォーリズも自宅でバイブルクラスを開講した。このクラスで中心的存在となるのが吉田悦蔵である。活動は次第に活発になっていくが、それを快く思わない人々との対立が深刻化し、明治39年1月には重大な事態に発展する。その後も対立は続いた。ヴォーリズは心労が重なり、6月には病気治療のため帰米を余儀なくされた。見送る吉田はこの時、ヴォーリズは二度と日本に戻ることは出来ないものと覚悟したという。しかし9月には帰国を果たす。そして40年2月には帰米中に調達した資金を元に青年会館（八幡YMCA）を竣工する。しかし彼らを取り巻く状況は厳しさを増し、ついには任期切れを理由に3月をもって解任される。学校を追われたヴォーリズに、同年卒業を迎えた吉田が同行した。外出すれば「免職の異人」と罵る声が聞こえてくる。がらんとした青年会館に、さながら籠城するような生活であったという¹。そのような中、アメリカその他の支援者に対して英文月刊誌『THE OMI MUSTARD SEED』²の送付を開始。また、卒業した友人らに日本語英語併記の『月報』の送付を開始した。この『月報』は『湖畔の声』にマンスリー・レターとして引き継がれる。かくして明治40年は堅忍のうちに終わったという。しかし、彼らは困難な時期をなんとか乗り越えて行く。

明治43年1月、ヴォーリズ帰米。同年末には建築技師レスター・チェーピンを伴って横浜港に帰国。ここに、ヴォーリズ合名会社が設立される。また、近江ミッションとも呼ばれる近江基督教伝道団が組織され、明治45年7月に一般家庭向け雑誌『湖畔の声』が発刊された。

吉田悦蔵と図書館事業³

ヴォーリズ合名会社（大正9年、近江セールズ株式会社とヴォーリズ建築事務所に再編）の事業が拡大する中であって、吉田には一つの夢があった。『湖畔の声』昭和16年1月号の中で「図書館の公開は三十余年念願して居たこと」と述べている。その近江兄弟社図書館は昭和15年12月11日に開館する。蔵書は約二万冊。初代館長には吉田悦蔵が就任した。未だ滋賀県に県立図書館が無い時代のことである。その後の吉田らの活動としては、昭和16年4月に滋賀県図書館協会を設立。5月には近江兄弟社教育会館にて日本図書館協会滋賀県支部の結成発会式を挙げる。発会式の様子は『図書館雑誌』259号（昭和16年6月）に詳

細に記録されており、吉田滋賀支部長の式辞、ヴォーリズ氏の挨拶も掲載されている。吉田はその後、滋賀県支部を推進力として県立図書館設立に尽力した。県立図書館は県下の各種図書館の中核となり発展の原動力となるべきものであるだけに、その設立は急務の課題であった。しかし昭和17年11月、吉田はこころざし半ばで帰らぬ人となる。県立図書館は翌年設立された。

その後の近江兄弟社図書館であるが、昭和22年には町立八幡図書館（元・八幡文庫）閉館にともない同図書館を併合し、町立図書館の建物へ移転する。この建物は近江の国文学者伴高蹊（ばんこうけい）ゆかりの屋敷である。かくして近江八幡唯一の図書館として、かけがえのない存在となっていく。しかし危機が訪れる。図書館の母体である近江兄弟社の経営危機である。これを受け、昭和50年4月から近江八幡市図書館として市に運営をゆだねられた。平成9年には八幡山の麓に新図書館が完成している。

本稿を締め括るに当たり『湖畔の声』昭和16年6月号に掲載された「近江兄弟社の新図書館の前途」と題する吉田悦蔵の文章から一部を抜粋したい。

「近江の田舎町のこの小さい図書館は、本は僅かに二万冊位にて家も小さく木造でお粗末なれど、新鋭の気に満ち図書館、即、町の中心、町の案内所、町の休息所、小さくとも博物館美術館であり、許さるれば水族館、植物園であり、よろづ相談所であり新聞雑誌のフンダンに読める心安い場所であり、立体的に世の中の進みの先頭に立つニュース館でありたく思うのであります。（中略）特に昭和時代の文献を狩り集め、限られたる予算のことなれば、紙屑屋の整理的の仕事も敢てするし、製本、保存、整理、展覧等々をやります。熱意のある所、必ず後世に、有力な文献を遺す仕事にも一生懸命尽したいと存じます。」

現在、日本図書館協会滋賀県支部の「近江兄弟社図書館資料保存研究会」が関係文書の調査を行っているという。今後の調査結果に期待したい。⁴
(つづく)

1 吉田悦蔵『近江の兄弟』78頁他（本学所蔵は吉田希夫氏からの寄贈図書である）

2 THE OMI MUSTARD SEEDは「アメリカ人教師の日本体験記」として、一粒社ヴォーリズ建築事務所から発行された。

3 近江兄弟社の図書館事業については主に以下の資料を参考にした。平田守衛、『滋賀の図書館』、梅澤幸平、「ヴォーリズと近江兄弟社図書館」、大倉山論集、第五十五輯、『湖畔の声』昭和15年12月号、16年1月号、16年3月号、16年5月号、16年6月号、16年8月号、17年6月号。

4 『図書館雑誌』2010年2月号（Vol.104 No.2）

図書館のススメ (その5)

横浜国立大学附属図書館

今回は、学生証および身分証があればみなさんも利用できる、横浜国立大学附属図書館をご紹介します。

横浜国立大学は、神奈川大学から地理的に近い大学図書館です（交通事情により、行くには少々時間がかかります）。木々というより森に囲まれた広大なキャンパスのほぼ中央にある、ガラス張りの建物が中央図書館です。2003年にリニューアルオープンしたこの図書館は、横浜スタジアムのグラウンドに匹敵する広さを誇り、蔵書数80万冊、閲覧席1,100席、そして200台近いパソコンを館内に設置しています。

図書館に行って最初に目にとまるのは、1階にあるカフェ“Shoka”と、情報ラウンジ、メディアブース（PCのあるグループ用個室）です。このフロアは交流スペースを目的としており、いわゆる入館ゲートの外に設置してあります。よって1階には一切資料はなく、飲食も可能ですので、見学当日もお茶をしながらノートパソコンを操作したり話をしたりと、リラックスしてくつろぐグループがたくさん見られました。学外者もカフェ等利用することができます。なお1階以外、入館ゲート内での飲食は、神大同様禁止です（ただし、一部エリアを除く）。

カフェの横の階段を上った2階が、いわゆる図書館の入口となります。みなさんが利用する場合は、この入館ゲート横にある「学外者来館票」に必要事項を記入して、学生証（身分証）と一緒に受付に提出してください。神奈川大学は、「横浜市内大学図書館コンソーシアム」の一員ですので、みなさんの学生証もしくは身分証さえあれば、入館することができます。

館内は、地上4階、地下1階で構成されています。書庫が地下にあるのは神大と同様ですが、書庫に入るための手続きは必要ありません。みなさんも自由に入ることができます。「PCプラザ」というパソコンエリアがありますが、みなさんはアカウントがありませんので、利用することはできません（ちなみに、横浜国立大学では、プリントアウトの際の用紙は有料）。ただし、館内様々なタイプの閲覧席がありますので、それだけでも十分集中して調べ物ができるとおもいます。

この図書館で印象に残るのは、利用者のニーズに合わせた施設・設備があることでした。もちろん蔵書もすばらしいのですが、図書館の1階にはカフェがありますし、更に館内にも「リフレッシュルーム（ペットボトルのみ可）」や「携帯電話コーナー」という館内で携帯電話をかけられる部屋があります。「メディアブース」「ワーキングスタジオ」といった、パソコンを利用してグループで自由に学習できる個室や、レポートを作成できるパソコンも多数あり、利用者各々が自分にあったスタイルで図書館を活用していました。

みなさんもこちらの図書館を利用する際は、ルールとマナーをしっかりと守って利用するようにしてください。そして、キャンパスマップと館内マップを片手に行くことをお勧めします。筆者はまずキャンパス内で迷い、更に館内でも迷いましたので…。



横浜国立大学附属図書館利用案内

所在地

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-6
TEL : 045-339-3219

アクセス

JR横浜駅西口、市営バスまたは相鉄バス
に乗車し、岡沢町下車
相模鉄道和田町下車 徒歩20分
市営地下鉄三ツ沢上町下車 徒歩20分

※横浜国立大学ホームページに、アクセスマップおよびキャンパスマップがあります。

※開館日および開館時間については、横浜国立大学附属図書館ホームページの「開館カレンダー」を参照ください。

※貸出不可。学生証（身分証）は必ず持参してください！

仲間たちと過ごした図書館

保科 友希恵

(経済学部現代ビジネス学科卒業 歴史民俗資料学研究科博士前期課程1年)

図書館には、4年間を通してよく通いました。1年生のときは、まだ慣れないテスト勉強のために。2・3年生のときは、ゼミのプレゼンの準備や就職活動のために。4年生のときは、卒業論文を書くために。

その時々で、図書館の使用目的や必要な資料は異なりましたが、パソコンのOPAC検索を使い、書庫上層を含めた神奈川大学のすべての蔵書から、学外からでも、簡単に且つ適切な資料を選ぶことができました。

図書館は私にとって、上記のような資料採集の場であると共に、仲間たちと過ごす場でもありました。私が所属していたゼミの仲間たちと活動をしたのも、図書館のグループ閲覧室でした。ゼミでは他大学との合同プレゼン大会に参加して、ゼミ生全員で一つの論文を作成します。私たちは、より良い論文を作成するために、グループ閲覧室で討論を重ねました。グループ閲覧室の利点は、すぐ手の届くところに資料があり、またノートパソコンを持ち込んで使用できるので、作業がスムーズに進むところにあります。

4年生の時には、卒業論文を書くために毎日のように図書館に通いました。論文を書く際にまず問題になったのは、どの本に自分の知りたい内容が書いてあるか分からなかったことです。そこで、カウンターで質問をしたところ、係の方が優しくアドバイスしてくださいました。また借りた本の貸し出し期限を延ばしたい場合は、パソコンや携帯から神奈川大学の図書館にアクセスし、自分の利用状況を確認、変更することができます。借りたい本が既に借りられている場合でも、同じようにアクセスし、予約することができます。このように、神奈川大学の図書館は、資料採集はもとより、コミュニケーションの場としての機能を持ち、学生生活には欠かせないものになっています。

しかし、その一方で、テスト前になると、にわかに来る学生のモラルの無さや盗難の頻発など、解決しなければならない問題が増えていることも確かです。図書館のいろいろな問題点を解決するためには、学生のニーズを把握し、そのニーズへの対応が重要であると思います。神奈川大学の図書館が、時代の変化と学生のニーズを把握して、ますます便利な図書館になることを期待しています。

図書館の思い出

南 果

(法務研究科修士・研修生)

小学生の頃、私は本を読むのが大好きで、毎日のように近所の図書館へ通ったものである。しかし、中学生、高校生となるにつれて本を読む機会は減っていき、気付けば、図書館は自分にとって縁のない場所となり、近づきたい空気さえ感じるようになっていた。

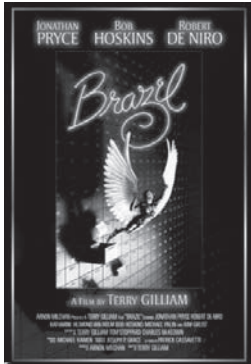
そんな中、再び図書館に足を運ぶようになったのは、大学院に通うようになり、資格試験の勉強を始めてからである。ある日、何気なく教科書を探しに大学図書館へと来てみると、初めて来た場所であるにも関わらず、何か懐かしさのようなものを感じた。静かな館内の、どこからともなく聞こえるページをめくる音、控え目な足音…場所は違っても、図書館の独特の雰囲気はかつて通った図書館と同じであった。それ以来、私は勉強に疲れた時には、自然と図書館に足を運ぶようになった。一度は敬遠していた図書館の空気は、再び私にとって心地の良いものとなった。

現在の大学図書館では、インターネットを利用した蔵書検索により、目的の本を瞬時に探し出すことができる。これは、調べ物のため教科書を探すような場合には大変便利な機能であり、もちろん何度も利用させてもらった。しかし他方で、このようなシステムをあえて利用せず、特に目的を持つわけではなく、その時の気分にあった本を探すことも大事であるように感じた。時には新刊の、時には日本文学の棚の前に立ち、たくさんの中の中から興味をそそられる本を探す時間は、日々のストレスを忘れさせてくれる数少ない機会となる。だからこそ、今後時代が変わりハイテク化が進んでも、図書館はその波にのまれることなく、昔ながらの部分も残してほしい。また数年後、数十年後に私がふらりと立ち寄ったとき、同じように懐かしさを感じられる大学図書館であってほしいと思わずにはいられない。

図書館の所蔵資料紹介

映画『未来世紀ブラジル』 [DVD]

テリー・ギリアム監督、
ジョナサン・プライス、ロバート・デ・ニーロ、キム・グライスト他、出演



この映画は「20世紀のどこかの話」の文字と、ショーウィンドウの爆発シーンで始まる。すべての情報は国によって管理され、暖房設備の修理すら役所を通さなければできない国。そんな社会に抵抗する人々による抗議の爆弾テロは日常化していた。

主人公サム・ラウリーは情報局の役人。彼は出世も拒み、日々を平穩に暮らすことに満足している。だが、そんなサムにも理想の女性がいた。その美しい人は繰り返しサムの夢に現れ、助けを求めて彼の名を呼ぶ。

クリスマスも近いある日、情報剥奪局の機械の誤動作によってもぐりの配管修理工タトル (Tuttle) と一字違いの靴職人バトル (Buttle) の誤認逮捕が起こる。ところが無実の靴職人バトルが「尋問」中に死亡してしまい、上司から事態の收拾を命じられたサムは、バトルの家で誤認逮捕の目撃者ジルと出会う。驚いたことにトラック運転手のジルはサムの夢に繰り返し現れる美女と瓜二つである。ジルの情報

を得るために自ら昇進を願って情報剥奪局のポストに就任したサムは、彼女が誤認逮捕を目撃したために抹殺されようとしていることを知り、データを改ざんして命がけでジルを守ろうとするが…。

1985年に製作されたこの作品が描く世界は、暗くグロテスクである。監督のテリー・ギリアムは、17世紀の魔女狩りの資料を見た時にこの映画のアイデアを着想したと語っている。当時の魔女狩りでは、自分の受ける拷問の費用と火あぶりの薪代を自分で支払ったという記録があったそうだ。映画の中で誤認逮捕され、殺された靴職人バトルが受けた「尋問」とは、実は「拷問」である。サムは、バトルから貰いすぎた「尋問手数料」を払い戻ししないとまずい、と上司に泣きつかれ、拷問費用を返金するため、殺されたバトルの家族のもとへサインをもらいに出かけていくのである。

ギリアムは17世紀の魔女狩りにおけるグロテスクな記録に、拷問に立ち会わなければならないひとりの人間について「いやな仕事だけど養うべき妻子のいる彼は、どんな風に対処するのだろうか」と思いをめぐらし、ここが『ブラジル』がスタートした地点だと語っている。バトルを拷問したサムの友人ジャックは良き家庭人として、そして主人公サムは最初、善人-最善を尽くしているけれど、自分が何をしているのかわからない人間として描かれる。だが、サムはジルを救うためにそれまで見ようとしなかった世界に目を向ける。そしてその世界観の変化はサム自身の破滅を招いていく。

だが、この映画に描かれているのは暗くおぞましい世界だけではない。あらゆる部屋に這い回る「ダクト」やラストの「尋問室」には、ギリアム作品独特の映像美があふれている。また随所にちりばめられた「笑い」は、誰もがどこか奇妙な、登場人物達の人間性を際立たせる役割を担う。ギリアムの名を初めて世に広く知らしめたのは1969年にイギリスBBCで放送を開始したコメディー「Monty Python's Flying Circus」である。この作品には「パイソン」のスケッチのように、不条理と笑いが混在する。

サムの母親達が際限なく繰り返す、若返り手術と美容整形。何からできているのかわからないレストランの料理。繰り返される爆弾テロ…。

奇妙でおかしく、不気味な美しさを放つ世界。

絶望的な結末。

この映画は「20世紀のどこかの話」という言葉で始まる。だが、過去の物語になったはずの世界が、どこか「今」に似ていると気付いた時、私たちははすかに戦慄を覚えるのかもしれない。

(請求記号 F778-125)

図書館からのお知らせ

横浜・平塚共通

◎夏季長期貸出について

貸出期間：7/12（月）～9/15（水）

返却期限：9/30（木）

対象：学部生・科目等履修生

冊数：10冊（通常と変わりません）

◎一般公開休止について

前期試験期間につき、下記期間一般公開を停止いたします。

日程：7/5（月）～8/3（火）

◎図書館サービス停止のお知らせ

図書館システムのバージョンアップに伴い、OPAC等のサービスを停止いたします。ご了承ください。

図書館は開館しておりますので、館内での資料の閲覧、複写、貸出・返却は可能です。

日時：8/4（水）終日

横浜

◎夏季館内改修工事について

館内の一部改修工事を行います。ご迷惑をおかけして申し訳ありません。ご了承ください。

改修場所：1階閲覧室、2階閲覧室

視聴覚資料室、書庫上層・下層

※利用を制限する場合があります。

日程：8～9月中旬

平塚

◎休日開館の実施について

前期試験期間につき、休日開館を行います。

日程：7/4、11、18、25の各日曜日

時間：9：10～16：50

編集後記

今年も夏がやってきた。数十年前は、夏になると必ずテレビで「四谷怪談」が放送されていたのを思い出す。現在のようにテレビ番組の内容は“お子様”に配慮のない時代である。とにかく怖かった。今考えてみれば、そんなに怖いのであればテレビの前になければよかったのだが、そこは昭和の家族、みんながテレビの前に集まっていたものだから、一人だけほかの部屋にいるほうがよけいに怖かったのである。

だが、怖がりながらもテレビの前を離れなかった子供のように、人は心のどこかで怖い話に惹かれるらしい。中にはわざわざ心霊スポットに出かけていく若者達もいるようだ。図書館には、水木しげる著『妖怪画談』（岩波新書）という本がある。これは各地に伝わる妖怪や“おばけ”といわれる奇妙なものを全ページカラーイラストで紹介した本だ。この本もずいぶんとたくさんの人に読まれたらしい。背表紙が汚れて黒くなって、ページが折れ曲がったりしている。

この本には、飢えに苦しんだ人々の想像が生み出したと思われる“餓鬼憑”や、大雨の後の河川の氾濫がそのまま妖怪となった“やろか水”など、昔の人々の苦労や自然現象などが基になって生まれてきたような妖怪や、日常的に起こる不思議な出来事に対する人々の想像力が作り上げたような、愛嬌のある妖怪がたくさん出てくる。一方、川辺に2人で座って話をしているだけの色黒で背の高い“川男”など、何のためにいるのかわからない妖怪もいる。

ろうそくの火が消えた、蚊帳がいつのまにか切れている、という困った出来事にも、ちゃんとその原因となる妖怪がいる。そういえば最近、図書館でわざとトイレをつまらせる困った人がいると思っていたが、多分、妖怪の仕業なのだろう。

(N.E.)

今号の表紙

《レオナルド・ダ・ヴィンチ 解剖手稿》（ウィンザー城王室図書館蔵・ファクシミリ版）より

肩、上腕、頸部、腱などの解剖的分析

ルネサンス期の万能の天才、レオナルド・ダ・ヴィンチが30年ほどの歳月をかけて独力で人体の構造を探究した記録。レオナルドは、解剖において適切な視覚的表現をなすためには「君は“この作業に情熱を注ぐ”画家である必要がある。」という言葉を残している。